

ブックガイド 気楽に読んで査定力アップ！（88）

<https://www.uuw.tokyo/bookguides/bookguide88.html>

——コロナ・ワクチン始まる！——

新型コロナとワクチン

知らない和不都合な真実

（峰宗太郎・山中浩之著 日経プレミアシリーズ
850 円税別 2020 年 12 月刊行）

気楽に読める一般向けの本で、アンダーライティングに役立つ最新知識をゲットしよう。そんなコンセプトでブックガイドしています、査定歴 23 年の自称査定職人ドクター・ホンタナ（ペンネーム）です。今回は久しぶりに「新型コロナ」本・・・うんざりですか？たしかに書店をのぞくとコロナ本があふれていますが、逆に増えすぎて何が何やら、みんな好き勝手なこと言ってるんじゃないの・・・という状態になってますね。それはテレビやネットも同じで、何を信じていいのかわからないという人も多いのでは。



そんな中、科学的で冷静な分析力が感じられ、ワクチンについても信頼に足ると思えたのがこの「新型コロナとワクチン 知らない和不都合な真実」です。ちょっと怪しげなタイトルですがそれからは想像もつかないほどの良書でした。ワシントン DC の峰先生に日経の山中氏がネット越しにインタビューを基にしたものなのですが、その形式がかえって新型コロナやその報道に対する一般人の疑問に理解しやすい道筋を示してくれています。

大きく 4 つのパートに分かれています。まず、新型コロナに対するインフォデミックともいべき混乱を整理し、これまでの感染や被害をまとめながら、どの程度のパンデミックであるのか基本再生産指数や致死率、重症化率を丁寧に解説、やたらに恐れるべきものではないけど単なる風邪でもない。軽症者・無症状者からの飛沫感染・エアロゾル感染の予防がなにより重要で、3 密対策を含めてこれまでの日本の対応は結構うまく行っていることがわかります。

2 番目のパートはワクチン、今回世界中で接種されようとしているのは人類史上初の核酸ワクチンの実用化であり、かなり最先端のものなんですね。いわば緊急事態だということで最先端技術の世界的な社会実験が行われているようなものなんです。本来必要とされるプロセスを

すっ飛ばしての接種であることを理解して、接種が先行している欧米・イスラエルで効果や副反応の発生を見る必要があります。欧米のように死者数が多ければワクチン接種のリスクをとることは合理的と言えますが、日本の死者数レベルであれば先行国の結果を見ながら考える、あるいは旧来型の不活化ワクチンの開発を待ってもいいのではないかという話も納得です。ネットでの情報ですが、峰先生自身は米国在住というリスクなどから最近モデルナ社のワクチンを接種したようです。

3 番目のパートでは PCR 検査について、事前確立や偽陽性率・偽陰性率など新型コロナに関するデータもそろってきた現時点からみれば、「検査を拡充せよ」「無制限の検査体制」という意見がいかにも的外れなのかよくわかりますね。PCR 検査陰性を免罪符のように扱うことも 3 割という偽陰性率を考えたら疑問だらけです。

そして最後のパートは新型コロナに限定せず、この情報化社会における情報リテラシー、つまりどうやって情報を集め、吟味し、咀嚼し、自分の決断や行動につなげていくのかという深い話になります。医学知識だけではなく、金融商品や保険商品、政治とのかかわり方も含めて、玉石混交の情報の渦のなかからどういうふうに情報を選び取るのか、どういう情報なら信じていいのかを真剣に考える、そのときのわれわれ自身の思考のありかたについての議論です。結局、新型コロナで多くの言説が飛び交う中、自分の頭で考えないといつまでたっても安心はできない・・・それは情報があふれる現代に生きるわれわれが身につけざるを得ない態度だというわけです。

そして、驚くべきことにこの本の最後に「この本を読んだ人が本を閉じてまず最初に考えるべきこと」として・・・「本は読んだけど峰と Y（山本）さんから聞いたことを、本当に丸呑みにしていいの？」という疑問をもつべき・・・うーん、参りました。知的な推理小説を読んだかのような読後感。新書とは思えない充実感でした。峰先生、次作も期待しています。（査定職人 ホンタナ Dr. Fontana 2021 年 2 月）。